

「立山黒部」世界ブランド化推進会議 第3回会議

プロジェクト進捗報告資料

平成30年3月26日

富 山 県

観光・交通・地域振興局

生活環境文化部



「立山黒部」世界ブランド化 会議・WGの開催状況

これまでの経過

○6月 1日

第1回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議・・・各プロジェクトの推進体制(責任者・関係者)とスケジュールイメージを共有
(東京開催)

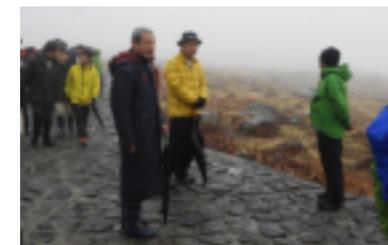
＜この間ワーキンググループを3回開催＞

○10月20日

第2回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議・・・各プロジェクトの進捗報告と「立山黒部」のブランドコンセプト等について議論
(富山開催:併せて現地視察も実施)



現地視察(黒部)



現地視察(立山)

○12月19日

第4回ワーキンググループ..... 県内事業者が共同して実施することが必要なプロジェクト外(6プロジェクト)について進捗確認や方針を議論
(富山開催)

プロジェクト例

滞在プログラムの充実 【検討内容】ポータルサイトの開設など具体的取組み内容など

○3月26日<本日>

第3回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議・・・「立山黒部」のブランドコンセプト等について議論をいただくとともに、各プロジェクトの進捗状況を踏まえ委員からご意見をいただく
(東京開催)

次回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」は5月中旬～6月頃を予定

「立山黒部」世界ブランド化 プロジェクト全体の進捗状況

各プロジェクト進捗状況

○ 昨年度の「『立山黒部』の保全と利用を考える検討会」において提案のあった28のプロジェクトのうち、

- ① 13プロジェクトについては、既に具体的な取組に着手
- ② 12プロジェクトについては、課題解決に向けた情報収集・検討中
- ③ 3プロジェクトについては、課題を整理中



VISIT 富山県
(カルデラ体験学習会を掲載)



環境配慮型トイレ

分類	該当するプロジェクト(例)	主な進捗状況
①具体的に着手 13プロジェクト (10プロジェクト)	12 カルデラ体験学習会の周知強化等	<ul style="list-style-type: none"> H30からバスコースの一部日程について、旅行会社のパンフレットやオンライン予約サイトへの掲載により、広く周知を実施 「エースJTB(首都圏発) 立山黒部アルペンルート」に掲載 VISIT富山県(県の着地型旅行商品販売サイト)に掲載
	13 新しいマーケット(欧米豪等)での認知度向上	<ul style="list-style-type: none"> ミシュラン・グリーンガイドを活用した欧米豪市場への情報発信を実施。H30は新たにトリップアドバイザーを活用したPRを実施予定
	22 環境意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> H29から訪日旅行客の対応に向け、ナチュリスト(外国語枠)を養成。(14名)
	23 山岳トイレの整備	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全に配慮したトイレを順次整備中。H29は水晶小屋の整備完了。
②課題解決に向け 情報収集・検討中 12プロジェクト (12プロジェクト)	07・08 アルペンルートの早期開業・冬季営業の試験的实施	<ul style="list-style-type: none"> 早期開業・冬季営業の可能性を検討するため、H30から監視カメラや観測員による気象・雪崩調査等を実施・検証
	26 環境保全経費の受益者負担の在り方の検討	<ul style="list-style-type: none"> 先行事例の情報収集、関係者等からのヒアリングを実施。引き続き、徴収の性質、確実性、コスト等について検討
③課題整理中 3プロジェクト (6プロジェクト)	09 黒部峡谷鉄道の冬季営業	<ul style="list-style-type: none"> 安全性の確保等が課題であり、必要な対策等について検討予定

※()内は前回会議(H29.10)時点の数字

「立山黒部」世界ブランド化関連 H30年度予算一覧

(新)「立山黒部」新アクセスルート基礎調査事業 (1,080万円)

ロープウェイの整備について検討するため、環境への影響の調査・分析等を実施

(新)「立山黒部」早期開業・冬季営業基礎調査事業(1,342万円)

立山黒部アルペンルートの早期開業・冬季営業の可能性を検討するため、積雪期の気象情報等を収集

(新)「立山黒部」ホテル・旅館ハイグレード化促進事業 (5,000万円)

宿泊事業者が「立山黒部」エリア(立山山麓・宇奈月温泉含む)において行うハイグレードなホテル・旅館の整備(新築・改築)を支援
補助率:5%、補助上限:5000万円

(新)「立山黒部」繁忙期ボトルネック解消事業 (180万円)

繁忙期の混雑緩和のため、ケーブルカーの代替輸送手段として運行する臨時バスの経費を支援(補助率1/3)

(新)「立山黒部」世界ブランド化PR動画制作事業 (1,400万円)

「立山黒部」をはじめ県内の四季折々の魅力を切り取ったドローン映像を撮影・編集

(新)「立山黒部」エリアにおける通信インフラ整備事業 (1億3,700万円)

携帯電話不感地帯や室堂周辺のWi-Fi未整備スポットの解消等

(拡)富山県DMO活動推進事業 (7,708万円)

旅行者データベースを活用しターゲットを絞った戦略的なWEB広告の配信
外国人観光客の広域周遊状況調査の実施

(新)欧米観光客誘致旅行サイト等活用事業(2,020万円)

世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」や「ミシュラン・グリーンガイド」を活用した誘客促進

(新)欧州観光コーディネーター設置事業 (200万円)

欧州市場担当を配置、旅行商品造成や現地プロモーションを促進

・ 立山・黒部外国人観光客対応施設等の整備(3,680万円)

案内看板・道標等の再整備と多言語化、称名平休憩所の改修等

(拡)ライチョウ王国とやま発信事業 (150万円)

ライチョウサポート隊の保護活動、首都圏でのPRを実施

(新)薬師岳でのライチョウの生息状況調査(350万円)

立山に次いでライチョウ生息数が多い薬師岳で生息状況調査を実施

(新)山岳警備救助活動強化事業 (500万円)

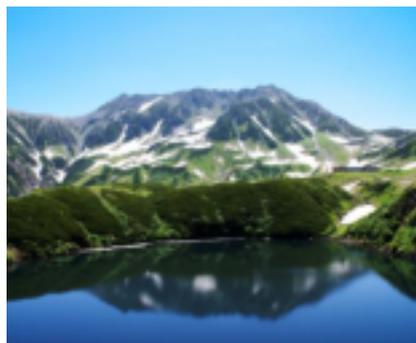
立山黒部の世界ブランド化に向けた山岳警備体制の強化

(新)「安全登山検討会(仮称)」の設置(100万円)

登山の安全対策の取組みを推進するための検討会を開催



(イタリア)スカイウェイ・モンテ・ビアンコの視察



02 アルペンルートの営業時間拡大

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 安全確保や環境保全に配慮しつつ、営業時間の拡大範囲や、拡大方法を検討
- 早朝や夕方、夜の魅力を活かした滞在プログラムを検討。



弥陀ヶ原ホテル 洋食堂から見える夕景



「山の日」の立山駅

◎ 検討状況

※第1回、第2回、第4回WGにおいて検討

《WG等での主な意見》

- ・ 山の世界は、早出・早着が基本。
- ・ スキーヤー・登山客は朝が早い。**早朝の前倒しは混雑緩和効果がある**のではないかと。
- ・ **夜間通行には安全施設**(街灯・ガードレールなど)**が必要**。**自然環境にも影響**がある。
- ・ **混雑の平準化**が非常に重要。
- ・ **立山駅からの代替輸送の強化による混雑緩和**は考えられないか。

【営業時間の拡大について】

- ・ **日の出時刻の早い繁忙日**(梅雨明け～お盆で設定)に、営業時間の**試験的前倒し**を検討
- ※夕方・夜間への後ろ倒しは安全性や環境保護上の課題をクリアする必要がある

◎ 今後の取組予定・検討事項

《H30の取組み》

- 梅雨明けからお盆の混雑が予想される日に、営業時間の前倒しを試験的に実施予定
 - ・ 右のダイヤより更に、**ケーブルカーは20分程度、高原バスは30分程度試験的に前倒し**予定
 - ・ 天候等から利用者の需要を判断し実施日を設定。1週間程度前からWeb等で周知を行う。

【H30の通常運行ダイヤ】

	ケーブルカー 始発時刻	高原バス 始発時刻
繁忙日	6:00	6:40
通常日	7:00	7:40

※繁忙日:4/21～5/6、7/21～8/26
9/15～10/14の土日祝
(8/13～15は毎日)

《今後の検討事項》

- 早朝の営業時間拡大の効果検証
 - ・ 試験的実施の効果検証、更なる拡大に向けた課題の整理
- 入込数の分散に向けた取組み
 - ・ 混雑予想等の情報提供や、閑散期の魅力の発信等で入込の平準化を図る
- 滞在プログラムの充実

※繁忙期の混雑緩和に向けた その他の取組み

○立山駅発の臨時バスの増便

- ・ GWやSWなどの繁忙期において発生している、立山駅での混雑緩和を図るため、立山駅発の臨時バスを増便



混雑する立山駅

「立山黒部」繁忙期ボトルネック解消事業

- ・ 混雑緩和に向けた、**臨時バスの運行に係る経費の一部を支援(1/3補助)**

- 立山駅における乗車券取扱い窓口の販売業務の効率化
- 電鉄富山駅発の特急列車の増便

06 滞在プログラムの充実

○国立公園満喫プロジェクト展開事業に採択

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 立山黒部貫光(株)を中心に、WGを開催。
- 滞在プログラムの充実のため、ガイドが活動・参入しやすいプラットフォームを整備。



キャニオニング

(出所)J-WET Adventures



森林セラピーちよっりコース

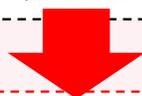
(出所)株エコロの森

◎ H29の検討・取組状況

※第1回、第2回、第4回WGにおいて検討

《WG等での主な意見》

- ガイドの方々が積極的にプログラムを開発していけるような環境をつくるのが非常に重要
- ガイドツアー参加者の意見をフィードバックする仕組みや、今後参加しようとする方に伝える仕組みは非常に重要



○「立山エコツーリズム研究会」の立ち上げ

＜趣旨＞ [会長:佐伯 高男 立山ガイド協会事務局長]

立山エリアにおいて増加する個人旅行者に向けたツアーの開発や事業者が活動しやすい仕組みづくりを進め、滞在プログラムの充実を図る

＜構成メンバー＞

:立山ガイド協会、ガイド事業者、立山カルデラ砂防博物館、立山博物館、立山山荘協同組合、県通訳案内士協会、環境省、立山黒部貫光(株)、県、立山町 等



第2回研究会

○ポータルサイトの開設

目的:各事業者が個別に発信しているプログラム情報を、一括して体系的に発信するサイトを作成することで、プログラム参加希望者の利便性向上を図る

概要:立山エリアで実施されるツアーを集約し、「登山」「自然環境」「歴史・文化」などのテーマ別や、季節別、所要時間別で検索が可能。ツアー参加者からの体験談を掲載することで、参加希望者への情報提供やガイドへのフィードバックを図る。



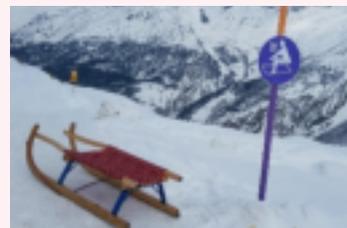
○先進地の視察、研修会の開催

1. ツェルマツト視察（世界の山岳観光先進地であるツェルマツトを視察）
2. 国内先進地視察（ガイド事業者が国内先進地を視察）
3. 外部講師を招いての研修会（会員向けに研修会を実施）

◎ 先進地視察: ツェルマツ(スイス)

参加者: 富山県、立山黒部貫光(株) 各1名

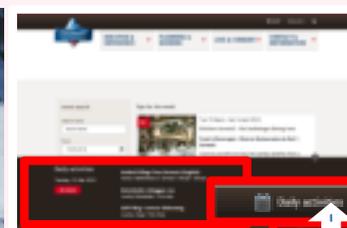
目的: 滞在プログラムを充実させる環境づくり(事業者支援のシステム、プログラムの提供方法、フィードバックの仕組み等)を学ぶ



ソリ専用コースの案内表示



トレッキング専用コースの案内表示



観光局のホームページ

立山エリアで検討すべき事項

① ガイド事業者への支援

観光局はツアー申込みの際の手数料を低く設定。
ガイド事業者への運賃減免制度も存在している

② アクティビティに応じたコース設定と案内表示

ソリやトレッキングなどアクティビティの内容やレベル等に応じてコースが設定され、分かり易く表示(色の使い分け・ピクトグラム等)されており、安全に体験できる。

③ HPから予約を促す仕掛け

観光局HPでは、その日に参加できるツアーが一覧として表示される

④ フリーパスの販売

様々な交通機関への乗車・博物館等への入館が可能となるフリーパスが販売されている。自由に乗り降りが可能なため、各駅で降車・滞在する意識が高まる。

⑤ 宿泊施設等との連携

宿泊施設では、自主的なサービスの一環として、滞在プログラムの案内や希望に応じて予約まで行っている

⑥ プログラムの質の確保

観光局では、取り扱うプログラムをコンペで決定し、質を確保している

◎ 先進地視察: 国内先進地

視察箇所: みなかみ地区(群馬県)、屋久島地区(鹿児島県)、軽井沢地区(長野県)

参加者: ガイド事業者、立山黒部貫光(株)

目的: 現地ツアーに参加し、ガイドの技術等を学ぶ

立山エリアで検討すべき事項

- 参加者の意見を拾い上げる仕組み
ツアー終了後に、ipadでアンケートに回答することでツアー中の写真・動画を見ることが可能となる
- リピーター獲得に向けた仕組み
ツアー参加によるポイントの付与やアンケートの回答内容に応じて参加者にお勧めのツアーが提示されるなどの仕組みづくりがされている



ipadでアンケートに回答

◎ 今後の取組予定・検討事項

- プラットフォームのあり方 (例: ガイドが活動・参入しやすい環境とはどのようなものか)
- 多様な滞在プログラムの提供 (例: 訪日旅行者の求めるツアーとはどのようなものか)
- 黒部エリアにおける取組み (例: 黒部エリアにおける推進体制の構築)

《今後実施予定の取組み》

- ・ ツアーデスクの設置
- ・ 新規ツアーの開発
- ・ ポータルサイトの運用



07・08 アルペンルートの早期開業・冬季営業

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 立山黒部貫光(株)を中心に、WGを開催。
- 気象データなどを収集・分析。安全性や環境に与える影響などの課題や実施条件について整理し、可能性について検討。



◎ H29の検討・取組状況

※第1回、第2回、第4回WGにおいて検討

《WGでの主な意見》

- データ収集・検証を行い、早期開業・冬季営業が可能と判断されるのであればよいのではないか。
- 安全性に加え、除雪能力の確保・向上も課題
- 安全性の確保については、除雪関係だけでなく、スキーヤーなどの安全確保も含めて検討が必要。

ご意見を踏まえ、今年度から以下の取組みを実施
※実施内容は、気象・雪崩の専門家と調整

1. データの収集・検証

- アルペンルートの営業期間終了後も、簡易カメラにより「雪の大谷」周辺の状況を観測
- 11月下旬に、大谷地内で雪層の観測を実施

※富山地方気象台とも連携
雪崩の観測等に有用な、地震計の計測結果の提供など、ご協力をいただいている



雪層調査

2. 除雪能力の確保

- H30の開業に向けた除雪から、1社体制を3社体制とすることで、**人員の確保・育成に努める**
- 併せて機械の配備体制を強化

◎ 今後の取組予定・検討事項

《H30の取組み》

1. 多くの来訪者が訪れる「雪の大谷」周辺の**気象・雪崩調査等を実施・検証**
2. 継続して複数事業者で除雪対応することにより、**作業員の熟練度向上を図る**

「立山黒部」早期開業・冬季営業基礎調査事業

(調査内容)

①監視カメラによる観測

監視カメラ1台を新設し、積雪期の大谷周辺の状況を映像により観測

②地震計による観測

地震計2台を新設し、既設(気象庁設置)の1台と計3台で、雪崩の発生を捉え、監視カメラによる雪崩観測を補完

③観測員による積層調査

気象データの観測や、弱層などを観測
(2. 5カ月(3月中旬～5月中旬、11月下旬))



○調査スケジュール



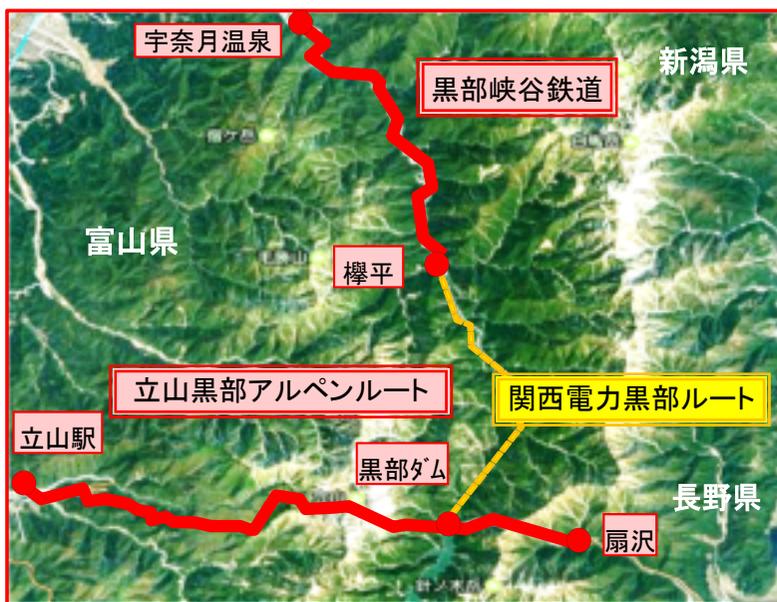
《今後の検討事項》 環境や生態系への影響 など

11 黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化

◎ 推進体制・取り組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 富山県と関西電力(株)を中心に、WGを開催しながら協議を進める。
- 旅行商品化、見学者枠の拡大等について具体的な課題整理・解決策の検討を行う。



竖坑エレベーター



高熱隧道

(出所) Google earthをもとに作成

《黒部ルート》

黒部ダムと黒部峡谷の樺平を結ぶルート。黒部川第三発電所、第四発電所の建設などに伴い、関西電力(株)が工事専用軌道として整備したもの。

現在、公募見学会(年間2,040名、平日のみ)が行われているが、一般の観光客には開放されていない。

現状

黒部ルート見学会は、黒部峡谷のすばらしさや電源開発の歴史を体感することができる貴重な機会であるが、**年間の定員が2,040名に限定**され、また、**参加者は抽選で決定**されていること、**見学会が平日のみに開催**されていることなどから、**参加できる方が非常に限定**されている。



黒部ルート見学会の充実・拡大を図る

プロジェクトの内容

プロジェクトで提案されている要素	メリット
①見学者枠の拡大	黒部峡谷のすばらしさや電源開発の歴史を多くの方に体感していただけるほか、発電事業に対する理解促進にもつながる。
②見学会の土・日・祝日実施	これまで平日の参加が難しかった若い世代など、より広範な方々の参加が可能になる。
③見学者の選び方の変更 (公募抽選方式⇒予約先着方式)	申込みと同時に確定することで、より広範な方々の参加が可能になる。 また、旅行計画を早い段階で立てることができ、県内観光や宿泊場所の選択肢が増える。
④県内宿泊・周遊等の促進	県内宿泊・県内観光と一体となった旅行の提案により地元経済への波及効果が期待できる。

11 議論の経過と検討状況

平成28年度

「『立山黒部』の保全と利用を考える検討会」開催

⇒ 「立山黒部」の世界ブランド化に向けたプロジェクトの1つとして「黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化プロジェクト」が提案される



以下の点も踏まえ、富山県から関西電力(株)へプロジェクトの実現に向けた検討を要請

- ・ 「工事用として建設される道路は、工事竣工後はこれを公衆の利用に供すること」という建設当時の許可条件や黒部ルートに係る土地が国立公園内の国有地であること
- ・ 実現すれば、立山エリアと黒部エリアを結ぶ周遊ルートや電源開発の歴史を知ることができる新たな産業観光ルートの形成につながる
- ・ 富山県のみならず、国の観光立国の推進の観点からも非常に重要なプロジェクトであること

「明日の日本を支える観光ビジョン」(抜粋)

- ・ 魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放
- ・ 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
- ・ 地方部での外国人延べ宿泊者数を増加

平成29年度

第1回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」(6月1日)

【関西電力 発言(抄)】

- ・ 旅行商品化を進められるということについての意義と期待は大変理解します。関西電力としても地元企業として協力していくという立場を取りたいと思いますので、前向きに検討していきたいと考えております。
- ・ 電力自由化が始まり、お客さんや営業関係の方をお連れするということは、当社の戦略の一つとなっております。そういう意味では、非常に重要な要でございますので、社客の部分のをこれに加えられるという事は非常に私どもとしては耐え難いと思っております。

黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化に関するWG(10月11日)

- ・ プロジェクトの具体的な内容について整理
- ・ 関西電力から安全対策の案を提示

第2回「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」(10月20日)

【関西電力 発言(抄)】

- ・ 電気事業をやらせていただいている中で、富山県との共存共栄をどう図るかというのは、経営の観点に据えたものだと思っておりますし、この旅行商品化についても、どう具現化していくのかというのが、私がこの場に参加させていただいている一番大きな原点かと思っております。
- ・ 観光を目的とした旅行商品になると、参加者は林相の料金を支払うことにより、当然それに合った安全が確保されているという認識でいらっしゃるものと考えており、まず必要な安全対策を講じた上で旅行商品化ということを検討していきたい。



以後、富山県と関西電力の間で具体的な協議を重ねる

◎ 現在の協議状況

- 富山県と関西電力の間で、旅行商品化の実現に向けて、その人数枠を現在の公募見学会(2,040人)よりも相当程度拡大する方向で鋭意協議を行っている。
- 平成30年度の公募見学会についても、従来どおりの日程に加え、新たに土日に見学会を実施することができないか鋭意協議を行っている。

15 携帯電話不通エリア、WiFi未整備エリアの解消

◎ 推進体制・取組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 富山県を中心に、WGを開催。まずは整備範囲を検討したうえで、通信インフラの確保も含めた課題を洗い出し、実現に向けた調査・研究を進める。

◎ 今後の取組予定・検討事項

○平成30年度「立山黒部」世界ブランド化推進会議 通信インフラ整備実施計画

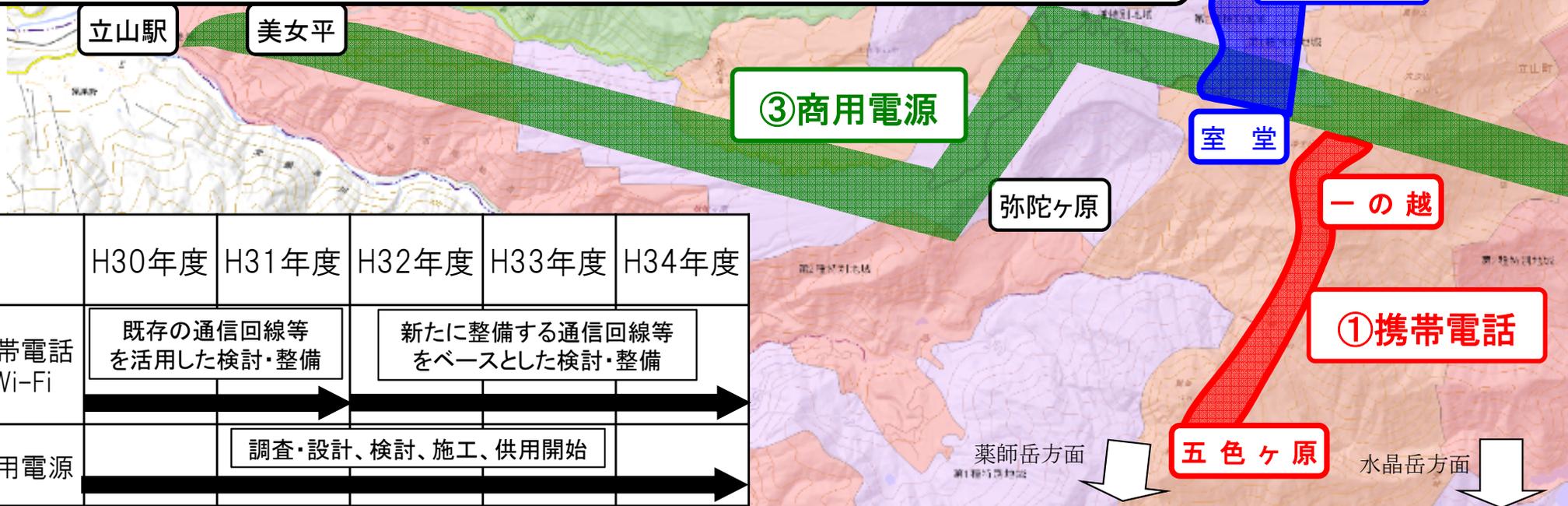
平成30年度実施概要(予算額1億3,700万円)

①一の越～五色ヶ原の携帯電話不感地帯解消

②室堂周辺のWi-Fi未整備スポットの解消等

- 雷鳥平周辺広場、雷鳥荘周辺登山道、室堂山荘周辺登山道、みくりが池温泉荘周辺園地(計4箇所)
- 「公衆無線LAN環境整備支援事業」(総務省)を活用

③弥陀ヶ原地区の商用電源供給に向けた調査・設計



	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度
携帯電話 Wi-Fi	既存の通信回線等 を活用した検討・整備		新たに整備する通信回線等 をベースとした検討・整備		
商用電源	調査・設計、検討、施工、供用開始				

17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ

これまでの議論

「立山黒部」の保全と利用を考える検討会 中間報告書をもとに作成

第1回会議で出された課題

- 新たな周遊観光ルートの開発
- 自然景観、産業遺産、冬の魅力の活用
- ボトルネックの解消

第2回会議で提案された解決例

立山と黒部(宇奈月)、そして立山カルデラ(有峰)を結び富山をダイナミックに周遊できるルートを構築

19「黒部峡谷ロープウェイ」の建設

17「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」の建設

18「立山カルデラロープウェイ」の建設



委員からの主な意見

○ヨーロッパでは、ロープウェイは環境負荷の少ない交通手段として知られており、上手く作ることによって景観を害さず、活かすことができる。

- ロープウェイの新設は、
 - ・植生や景観への影響が懸念され、ハードルが極めて高い。
 - ・公園利用計画の位置付け(中央環境審議会の答申)が必要。



検討会 中間とりまとめ

17「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」の建設

- ・立山ケーブルカー等のボトルネック解消に大きな効果が見込まれる。
- ・自然環境への配慮として、植生を傷めない形でのロープウェイ整備の方法の検討が必要。
 - ※例えば、植生を潰すのではなく、既に開発されている道路、駐車場等にロープウェイの支柱の設置等
- ・より環境負荷の少ない交通手段として、既存の交通手段(ケーブルカー・バス等)との代替可能性、採算性等の検討が必要。

18「立山カルデラロープウェイ」の建設

- ・弥陀ヶ原ロープウェイと異なり、想定するルート上や乗り場までのアクセスルートが無い場合、ロープウェイ建設による環境への影響は極めて大きい。

19「黒部峡谷ロープウェイ」の建設

- ・貴重な植生と景観を有する地域(特別保護地区)であり、想定するルート上には、開発されている道路等が無い場合、設置工事による環境への影響は極めて大きい。

ワーキンググループにおいて、まずは、「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」の建設について、調査・研究を行う。

短・中期

立山ケーブルカーの現状も踏まえ、まずは立山～弥陀ヶ原区間について、ロープウェイ整備に加え、既存道路の活用も含め、新たなアクセスルートを検討。

17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ②

立山ケーブルカーの現状



(出所)Yahoo! JAPANをもとに作成

《立山ケーブルカーの概況》

- 区間(標高) 立山駅(475m)～美女平駅(977m) ※高低差502m
- 型式・種別 単線釣瓶式 121人乗り
- 運転時間 7分20秒(3.25m/s)
- 最大輸送人員 片道720人/h
- 着工 昭和27年12月8日
- 営業開始 昭和29年8月13日
- 延長 水平長1,267m 斜長1,366m

営業開始から、64年が経過

立山ケーブルカーの問題点

※立山黒部貫光(株)へのヒアリングをもとに作成

① 輸送力が限られ、繁忙期に大幅な混雑が発生

- GW等、最大5時間の待ち時間が発生
- 立山ケーブルカーの最大輸送力約700名/時



繁忙期、早朝の立山駅

② 営業開始から64年が経過し、交換やメンテナンスが必要な設備・機械が増加するとともに、今後、線路やトンネル設備などの大規模なメンテナンスが必要

《主なケーブルカー設備の標準的な耐用年数》

- ・車両、車輪 15年
- ・鋼索、巻き上げ機 12年
- ・枕木(コンクリート製) 20年
- ・道床 60年

(出所)減価償却資産の耐用年数等に関する省令別表をもとに作成



立山ケーブルカー車両整備の様子

ケーブルカーを継続して使用する場合、

- (現在でも計画的に補修を行っているところであるが) **長期的には、今後、例えば20年・30年使い続けた場合、安全性の課題も生じうる。**
- 現在、国内の部品供給メーカーがないため、**海外からの調達が必要となり、コストが高くなる。**

③ バリアフリー対応が難しく、高齢者を中心に顧客満足度の向上を図ることが困難

現在、車椅子の旅行者に対して、職員が人力で運ぶなどできる限り対応しているが、万が一の危険があるほか、繁忙期は対応に時間がかかる。



立山ケーブルカー(立山駅)乗り場

立山駅・美女平駅においては、**施設の大きさや構造の関係上、ホーム柵、スロープ、エレベーターなどのバリアフリー設備の導入は困難。**

(参考)スカイウェイ・モンテピアンコ

大きなゴンドラ(定員約80人)で、運転中もゆれが非常に少なく、乗降時もターミナル駅との間に段差が無い。



ゴンドラ側

ターミナル側

立山ケーブルカーを今後も長く使い続けるには、コスト面、営業面、環境面、安全面から課題が多く、立山ケーブルカーに代わる新たなアクセスルートについて、検討が必要な時期を迎えている。

17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ③

新たなアクセスルートの検討について

称名滝までのアクセス道の更なる整備・安全確保策を検討

《参考：委員からの意見》

・称名滝は日本一の滝であり、称名滝までのアクセス道路は整備すべきではないか。



称名滝までは、最寄の駐車場・バス停から徒歩で約30分(約1km)

新たな魅力の創出

- ・ 称名滝付近にアクセスルート进行することで、日本一の落差(350m)を誇る称名滝の魅力の更なる活用を図ることができる。
- ・ ラムサール条約登録湿地の弥陀ヶ原湿原や、立山等の素晴らしい景観が一望できる。



弥陀ヶ原湿原



称名滝

課題

- ・ 環境・景観への影響
- ・ ラムサール条約登録湿地(国立公園特別保護地区)の付近については、特に慎重な検討が必要
- ・ ゴンドラリフトの整備にあたっては、既存の道路や駐車場等のスペースの活用を検討
- ・ 大観台～弥陀ヶ原間のバス運行距離縮減(6.6km、大観台～室堂間の約半分)・運行台数縮減など環境負荷の改善効果も検証
- ・ 安全確保策(ロープウェイ・ゴンドラ停止時の救助方法等)



(出所) Yahoo! JAPANをもとに作成

※ケーブルカーのルート(上記緑色の線)はカーブのある脆い斜面のため、これに沿ってロープウェイ(ゴンドラリフト)を作る(支柱を立てる)ことは、安全性の面で課題が大きい。

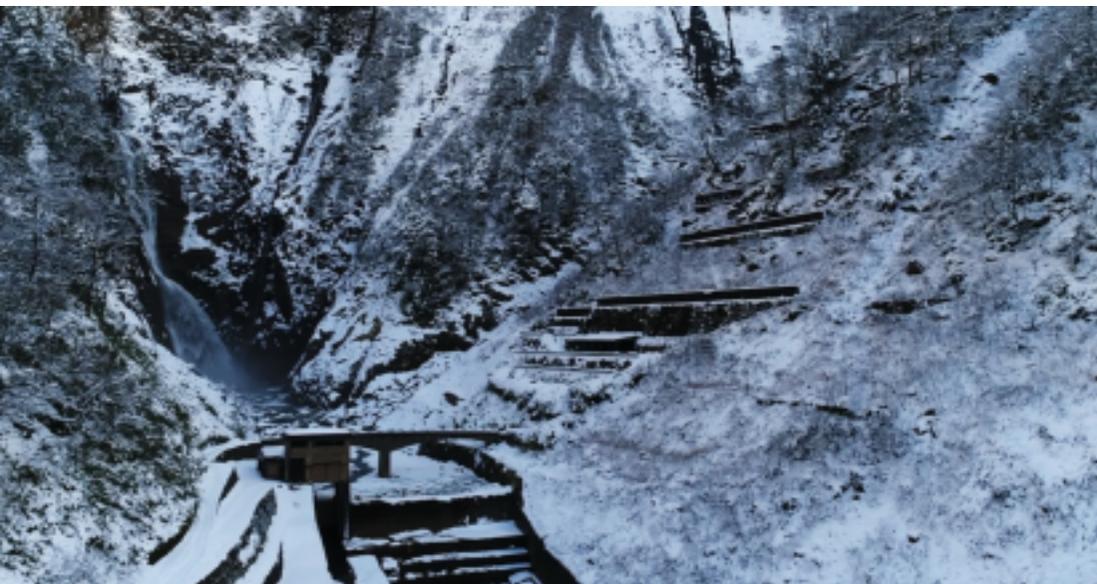
17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ④

(参考) 称名滝～弥陀ヶ原ロープウェイからの眺望

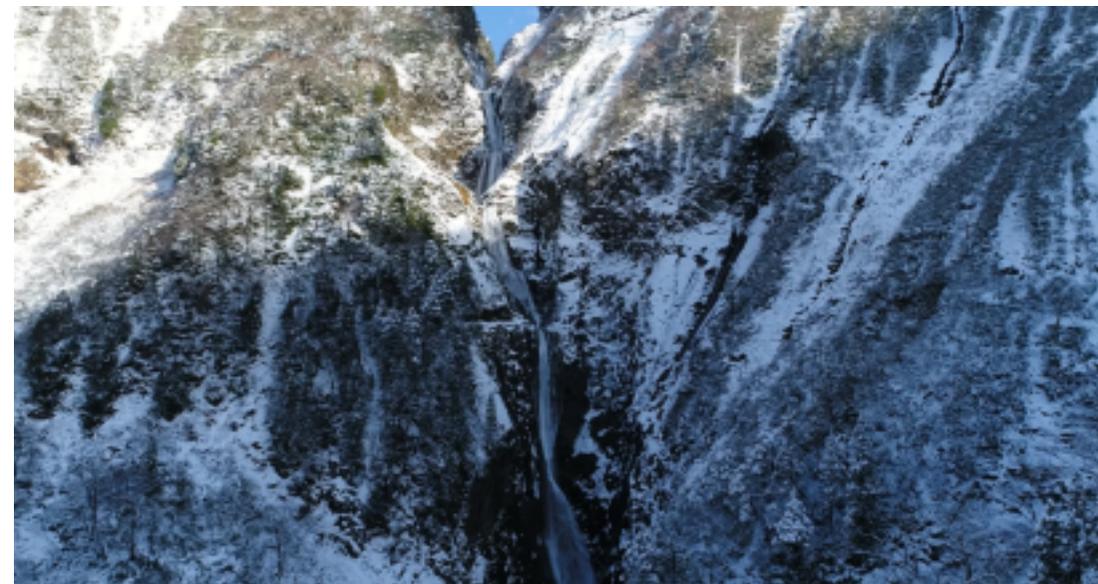
想定ルート①のうち、称名滝～大観台区間(ロープウェイ)について、ルートに沿ってローンで景観を撮影したもの(ロープウェイが整備された場合に見ることができる眺め)



○称名滝付近



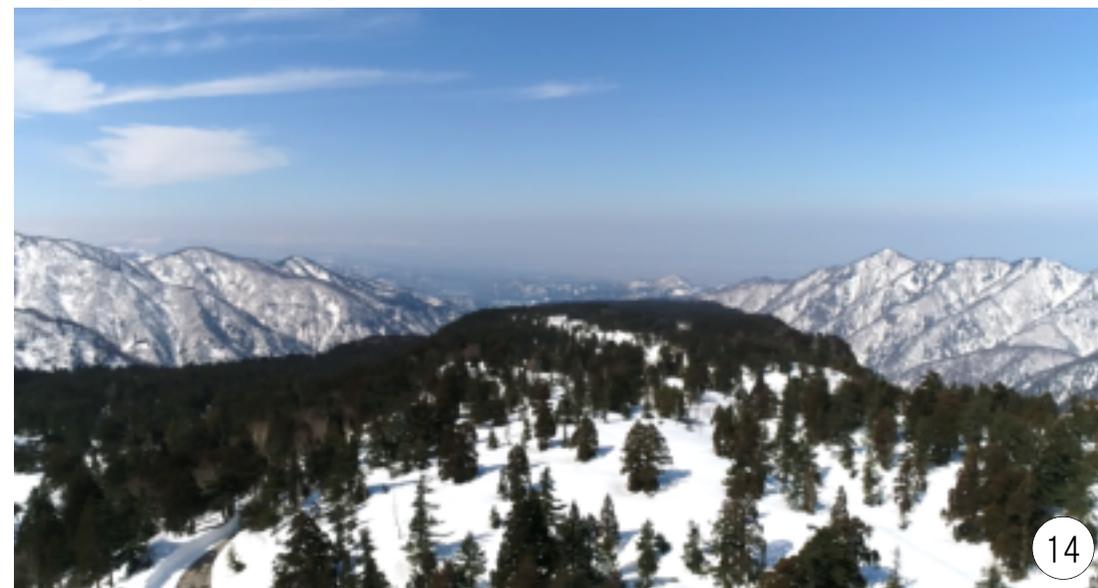
○中間点



○大観台上空(山側)



○大観台上空(麓側)



17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ⑤

(参考) 立山～美女平ロープウェイからの眺望

想定ルート②のうち、立山駅～美女平区間(ロープウェイ)について、ルートに沿ってドローンで景観を撮影したもの(ロープウェイが整備された場合に見ることができる眺め)



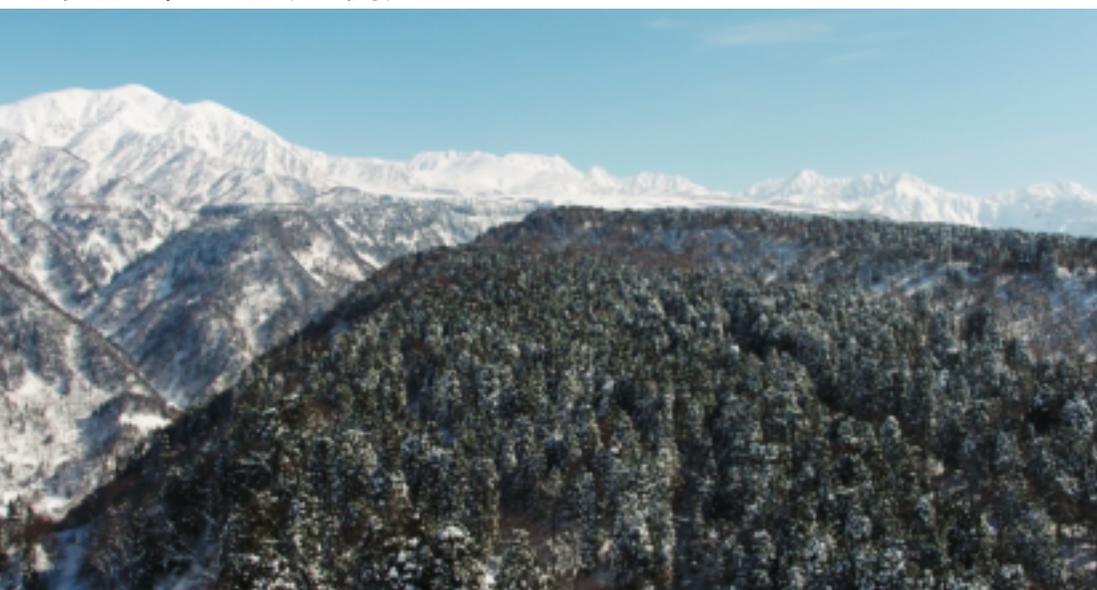
○立山駅付近



○中間点



○美女平上空(山側)



○美女平上空(麓側)



17 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ⑥

新しいアクセスルートの調査・検討について

ロープウェイ整備を含む立山～弥陀ヶ原区間のアクセスルートについて、環境・景観・安全確保などの課題を整理し、調査・検討を進める。

ロープウェイ建設に係る主な課題

○環境、景観への影響

・ロープウェイ等を整備した場合に環境に与える影響について調査・分析し、既存ルートとも比較しながら検討を行う必要。併せて、植生復元※の取組みや、EVバスなどの環境に優しい技術の導入可能性等についても検討が必要。

○安全性の確保

・ロープウェイ等に係る安全確保策について検討が必要(万一の場合の救助方法等)。併せて、既存道路の安全確保策(落石対策等)も検討が必要。

○事業採算性の検証

※立山では、昭和40年台より、立山黒部貫光や県等が主体となり、植生復元事業を継続して実施

平成30年度の取組み

<主な調査事項(H30)>

○環境・景観に与える影響の調査

○安全確保策の検討

○利用者意向調査に基づく将来需要予測

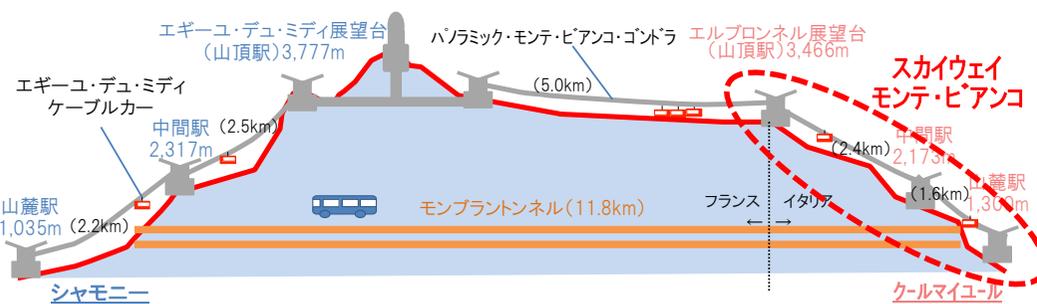
⇒ **新アクセスルート基礎調査事業(10,800千円)**



(参考)スカイウェイ・モンテ・ビアンコの場合

【スカイウェイ・モンテ・ビアンコ 概要】

- ・ 2015年5月にオープンしたロープウェイ。標高1,300m～3,466mを約15分で結ぶ
- ・ アルプスを越え、シャモニー(フランス)とクールマイユール(イタリア)を結ぶルートの一部を構成
- ・ 2016年の利用者数は約27万人
- ・ 総建設費は約1.4億ユーロ(約185億円)



○最先端の技術を注ぎ込んだロープウェイ

- (1)ゴンドラには床暖房を設置して凍結を防止
- (2)ゴンドラの窓には特殊なガラスを用いて曇らないようにしている
- (3)山頂駅付近に水の浄化設備を設置し、環境汚染は生じない など

○ゴンドラは360° ガラス張りであり、運行中に1回転し、どの位置からも眺望が良いように工夫

○大きなゴンドラ(定員約80人)で、運転中もゆれが非常に少なく、乗降時もターミナル駅との間に段差が無い

○3重の電源など安全確保に十分配慮(オープン以降、運行停止なし)



360° ガラス張り
運行中に1回転するゴンドラ



動力室見学の様子

21 登山道の整備

◎ 推進体制・取り組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議より

- 富山県を中心に、WGを開催。
- 案内看板・道標等の再整備と多言語化、登山道のクオリティアップを実施。
- 「弥陀ヶ原～大日平の吊橋復元」といった、魅力的で周遊性の高いルート of 構築について検討。



悪天候でも視認しやすい黄色のアイキャッチ



植生に配慮の上、歩行者がすれ違いやすいよう複線化

◎ H29の検討・取組状況

※ 第1回、第2回、第4回WGにおいて検討

《WG等での主な意見》

- ・登山道等は、**順次再整備**が必要
- ・歩くアルペンルートに緊急時の途中待避、避難経路を示す**標識整備**が必要
- ・欧米を中心に外国人登山者も増加しており、**安全対策の検討**も必要
- ・立山には古くから多くの登山客が訪れており、一般の観光客だけでなく、**登山を楽しむ方々に向けた取組みも重要**

1 登山道等の整備は、国の直轄事業や交付金を活用するなど、**計画的に実施**

- ・登山道の整備（歩くアルペンルートの整備）
- ・木道の新設、再整備（植生の踏み荒らしを防止）
- ・案内看板、道標の整備（多言語化やデザインの統一）
- ・県民協働ボランティア（木道の滑止め板設置、外来植物除去）
- ・環境配慮型トイレの整備（土壌処理循環型等）



ボランティアによる安全対策

2 「弥陀ヶ原～大日平の吊橋復元」について、**当時の情報収集**

- ・当時を知る人や立山弥陀ヶ原・大日平学術調査団から聞き取り
- ・弥陀ヶ原～大日平総合学術調査に同行し、現地確認(H29.10.21)

◎ 今後の検討事項

- 登山道等の整備予算の確保、優先順位をつけ計画的に整備
 - ・効果的、長寿命化対策に対応した整備方法の検討
- 中高年登山者や外国人観光客の増加している現状を踏まえ、安全登山対策を検討

《H30に実施予定の取組》

○ 安全登山検討会(仮称)の開催

〈検討項目〉

- ・登山者の**安全対策**（遭難対策、情報伝達等）
- ・登山者の**利便性向上**（登山道の難易度格付け、登山道とハイキングコースの区分、オンライン登山届出システム、山岳Wi-Fiの整備等）



中高年登山者



難易度の高い登山道
(劔岳：カニのヨコバイ)

27 とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査

◎ 推進体制・取り組みの方向性

※第1回「立山黒部」世界ブランド化推進会議資料より

- 本県のライチョウ保護活動を広めるため、各県のサポート隊との連携を検討。
- 本県のライチョウが安定的に生息しているか、定期的に生息数調査等を行い、保護活動の基礎情報とする。

ライチョウの生息数		
	S50年代	H20年代
県内	1,300羽	1,300羽
全国	3,000羽	2,000羽



安定的に生息している
富山のライチョウ

◎ H29の検討・取組状況

※ 第1回、第2回、第4回WGにおいて検討

《WGでの主な意見》

- ・ 立山は、ライチョウや植生など、**環境保全の研究が進んでいる。**
- ・ 立山のブランド化には、**環境保全の調査、研究を進めていくスタンスが必要。**

1 各県のライチョウサポート隊との連携

- ・ 長野県等のサポート隊と連携した活動を実施(6/18)
- ・ 第2次とやまのライチョウサポート隊(128名)を結成し、隊員による生息情報の収集や本県の保護対策の普及などを実施。(12/27 活動報告会を開催)

2 ライチョウが安定的に生息しているか、**定期的に生息数調査を実施**

- ・ 主な生息数調査の結果(右表)
- ・ H29朝日岳での調査結果から、安定的に推移していることを確認。

立山	朝日岳	薬師岳
S47: 267羽	S48: 42羽	S49: 81羽
H3: 333羽	H6: 56羽	H5: 149羽
H23: 284羽	H23: 44羽	H22: 113羽
H28: 295羽	H29: 42羽	H30: 予定

◎ 今後の検討事項

● 日本一のライチョウ王国の永続

《H30に実施予定の取組》

- ライチョウ王国とやま発信事業による普及
 - ・ **上野動物園**などでライチョウ生息域内保全の重要性を普及(ポスター発表等)
 - ・ **第3次とやまのライチョウサポート隊**活動の実施
- ライチョウ生息状況調査の実施
 - ・ 立山の次に生息数が多い**薬師岳**で実施
- 立山ライチョウ生態調査の継続



ライチョウ生息状況調査



サポーターによる保護柵の設置

各プロジェクトの進捗状況

- ① 具体的な取組に着手しているプロジェクト(13プロジェクト)
 ② 課題解決に向けた情報収集・検討を行っているプロジェクト(12プロジェクト)
 ③ 課題整理を行っているプロジェクト(3プロジェクト)

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況
01	混雑スポットにおける食事・休憩スペース拡充	立山黒部貫光(株)		短期	② 立山黒部貫光において、室堂でのオープンテラス設置に向け、今年度中に具体的な位置や設備、提供するサービスについて整理し、H30年度のお盆等繁忙期に試験的に営業する。
02	アルペンルートの営業時間拡大	立山黒部貫光(株)	○	短期	② 来年度の梅雨明けからお盆の繁忙期に、営業時間の前倒しを試験的に実施する予定。併せて、繁閑期の分散に向けた取組みについて検討。
03	乗車整理券の配布	立山黒部貫光(株)		短期	② 立山黒部貫光において、具体的な進め方を検討中。
04	高原バス等のWEB予約システム	立山黒部貫光(株)		中期	② サイネージ等を用いた乗車整理券の仕組みやWebシステムの構築等について対応を検討。
05	既存宿泊施設の高付加価値化、ハイグレード宿泊施設の整備	立山黒部貫光(株) 富山県	○	中期	② 既存宿泊施設の高付加価値化に向け、室堂周辺の山小屋等の宿泊施設に聞き取り調査を行い、課題の洗い出しを実施。また、H30年度は県でハイグレードな宿泊施設の整備のための支援制度(「立山黒部」ホテル・旅館ハイグレード化促進事業:5000万円)を設け、新築・建替等を希望する事業者を発掘。
06	滞在プログラムの充実	立山黒部貫光(株)	○	短期	① 「立山エコツーリズム研究会」を立上げ、ガイドツアーを紹介するポータルサイトの開設や、関係者連絡会議の開催、先進地域の視察など、滞在プログラムの充実に向けた取組みを実施。今後、ガイド事業者が活動しやすい環境づくりなどについて検討。
07	アルペンルートの早期開業	立山黒部貫光(株)	○	中期	② 早期開業・冬季営業の可能性を検討するため、監視カメラや地震計による雪崩等の観測や観測員による気象データの収集を実施。数年程度必要なデータを収集し、その後データの分析・検証作業を実施する予定。
08	アルペンルート冬季営業の試験的実施	立山黒部貫光(株)	○	中期	② 早期開業・冬季営業の可能性を検討するため、監視カメラや地震計による観測や観測員による気象データの収集を実施。数年程度必要なデータを収集し、その後データの分析・検証作業を実施する予定。
09	黒部峡谷鉄道の冬季営業	黒部峡谷鉄道(株)	○	中期	③ 冬季の黒部峡谷への誘客を図るため、H30.1月から「トロッコ電車運転体験会」を実施。併せて、冬季営業には安全性等の確保が課題であるため、今後、必要な対策(スノーシェッド等)にかかる費用の算出や冬季期間に実施している車両整備業務との人員調整について検討予定。

各プロジェクトの進捗状況

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況	
10	ヘリスキーの企画・実施	富山県		中期	③	課題整理に向け、ヘリスキーの実施を希望する事業者を発掘中。
11	黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化	富山県	○	中期	②	富山県と関西電力の間で、旅行商品化の実現に向けて、その人数枠を現在の公募見学会(2,040人)よりも相当程度拡大する方向で鋭意協議を行っている。また、平成30年度の公募見学会についても、従来どおりの日程に加え、新たに土日に見学会を実施することができないか鋭意協議を行っている。
12	カルデラ体験学習会の周知強化等	富山県	○	短期	①	関係者との協議の結果、国土交通省立山砂防事務所の協力も得て、H30年度のバスコースの一部日程について、旅行会社のパンフレットやオンライン予約サイトに掲載・周知を行う。
13	新しいマーケット(欧米豪等)での認知度向上	富山県		短期	①	ミシュラン・グリーンガイド、ジャパングイドを活用して、欧米豪のマーケットに対してプロモーションを実施するなど、海外に向けた認知度向上に継続的に取り組んでいる。H30年度は、世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」等を活用した情報発信により、更なる認知度向上を図る。
14	多言語表記・案内の充実	立山黒部貫光(株)		短期	①	黒部湖駅、室堂ターミナルにおいて、デジタルサイネージをH30年3月に新たに設置。
15	携帯電話不通エリア、WiFi未整備エリアの解消	富山県	○	長期	①	来年度、一の越から五色ヶ原の携帯電話不感地帯の解消、室堂周辺のWiFi未整備スポットの解消等、弥陀ヶ原地区の商用電源供給に向けた調査・設計を実施する予定。現在、実施に向け関係者と調整を進めている。
16	ユニバーサルサービスの推進	富山県		短期	①	各事業者において、ユニバーサルサービスの推進を実施中。また、立山黒部エリアの宿泊施設等へ、現状や今後の取り組み・課題等についてアンケート調査を実施。結果を「とやまバリアフリーマップ」に掲載し、情報提供を行っている。
17	立山～弥陀ヶ原ロープウェイ	富山県	○	中期	②	8月上旬に「海のあるスイス」先進地調査団(団長:石井知事)によるスイス等の視察を行い、欧州最新鋭のロープウェイ(スカイウェイ・モンテ・ビアンコ)の視察、運営会社社長との意見交換を実施。H30年度は、「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」の整備について検討を行うため、環境に与える影響等の調査・分析を行う予定。
18	立山カルデラロープウェイ	富山県	○	中期		
19	黒部峡谷ロープウェイ	富山県	○	中期		

各プロジェクトの進捗状況

No	プロジェクト名	責任者 (事務局)	WG 対象	期間	進捗状況	
20	宇奈月温泉街の賑わい創出	黒部市		短期	①	まち歩きのリ遊の主要拠点となる宇奈月公園散策路を整備。加えて、冬の賑わい創出に向け周遊クーポン(「冬の宇奈月を楽しむホッとクーポン」)を発行。
21	登山道の整備	富山県	○	中期	①	国の直轄事業や交付金を活用するなど、計画的に登山道の整備を行った。H30は、外国人観光客等が増加している現状を踏まえ、安全登山検討会(仮称)を開催し、対策を検討予定。
22	環境意識の啓発	富山県		短期	①	H29は、57名のナチュラリスト(うち今年度はじめて外国語枠14名)を養成。H30は、ジュニアナチュラリストを養成する。
23	山岳トイレの整備	富山県		短期	①	国の補助金も活用しながら、順次、環境保全に配慮したトイレを整備中。なお、H29は、水晶小屋の整備完了。H30は、スゴ乗越小屋を整備する予定。
24	外来植物除去活動の推進	富山県		短期	①	「とやまの山岳環境整備ボランティア」等による継続的な外来植物除去の活動を実施する。
25	利用調整地区の導入の検討	富山県	○	中期	③	ライチョウの保護のため、立ち入りには事前にレクチャーを行うなど、生息域の環境保全に向けた取り組みを既に実施しており、当面、具体的検討の必要性は低い。
26	環境保全経費の受益者負担の在り方の検討	富山県	○	中期	②	先行事例の情報収集、関係者等からのヒアリングを実施。観光客や登山者の動向について研究。引き続き、徴収の性質、確実性、コスト等について検討を進める。
27	とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査	富山県		短期	①	第2次とやまのライチョウサポート隊が活動。朝日岳の生息生態調査を実施(生息数は安定)。H30は、第3次サポート隊活動、生息数調査(薬師岳)を実施する予定。
28	雪崩事故対策	富山県		中期	①	入山指導員による指導等を実施。雪崩に関する研修会に2名を派遣するなど、指導体制を強化。引き続き、入山安全指導窓口での指導や、雪崩危険情報の提供を行う。
	火山対策	富山県		中期	①	「弥陀ヶ原火山防災協議会」(H28.3設置)において噴火シナリオを策定し、火山ハザードマップを作成中。